

- 1 会議名 公共施設再配置検討協議会
- 2 日時 平成29年7月20日(木)  
午後3時～午後4時38分
- 3 場所 第3委員会室
- 4 出席委員 全委員
- 5 出席者 総務部長 山田日出雄、建設部長 西垣正則、教育こども未来部長 長谷川忍、協働推進課長 小松浩、都市整備課長 西村忠寿、同主幹 石黒光広、同主事 酒井治、同再任用技術職員 長瀬公治、維持管理課統括主査 竹安誠、健康課長 長瀬信子、長寿介護課長 原咲子、学校教育課長 石川文子、同統括主査 佐野亜矢、生涯学習課長 竹井鉄次、子育て支援課長 西井上剛、同統括主査 佐久間喜代彦
- 6 事務局出席者 議会事務局長 尾関友康、同主事 高野真理子
- 7 会長あいさつ
- 8 執行機関あいさつ 都市整備課長より
- 9 執行機関報告 都市整備課長より
  - ①平成29年6月29日に開催された第2回公共施設再配置計画検討委員会について、資料(会議録)に基づいて報告。→質疑なし

②スケジュール変更について資料2に基づいて報告。

**【質疑】**

大野副会長：スケジュールが1年延びることによってどれくらいの費用が必要となるか。

都市整備課主幹：検討委員会の回数が倍の11回程度必要となり、それに対して70万弱位の費用増加が見込まれる。

大野副会長：委託しているコンサルへの経費の増大は。

都市整備課主幹：今の契約金額から比較して70万弱の増を見込んでいる。検討委員会の回数が増えた事が要因。

大野副会長：委託費が1年間延びる事によって、会議にも大分出てくるわけだ。コンサルの経費をわかっているか。わかっているものだと思って僕は喋っているが、1年間延びてまとめが延びるという事は、それだけ人件費がかかってくるから、どれだけの経費がかかるのかと聞いている。

都市整備課主幹：ですから、70万円程です。あとは委員報酬が、概算30万円程の増。

櫻井議員：保育園については民間も入れての再計画等による1年延期ということだが、延期した事によって画期的な案になるか、最終的に各論反対で今まで通りでしたという可能性もあるのか。

都市整備課長：学校施設の長寿命化計画で予想されるのは、施設は80年まで実質長寿命化を図る事が出来るということ。更新年を60年として、そこで第1期、第2期について複合案を作っているが、それが例えば長寿命化計

画で 80 年まで延ばすことになった場合には、今までのモデルの更新月が 20 年変わってくる。今のモデル案の見直しが生じる可能性が十分ある。

大野副会長：一部は改築しないと駄目なのか、あるいは更新なのかを決めるのが長寿命化計画であって、全部 20 年延ばすなら 20 年先送りしただけ。この学校は改築方針、この学校は長寿命化、だから手入れをしていきますというのが無いので、今のままだと単なる 20 年全部更新です、20 年後にまた考えますって言う考え方になるだけ。マネジメントでもなんでもなくて単なる先送りだ。総合的に考えて長寿命化計画を作るのか、単なる 80 年に延ばすという事なのかどちらなのか。

都市整備課長：すべてを 80 年に延ばす流れで行くとおっしゃる通り、要するに先送りで、耐用年数が来て一斉に建替えなきゃいけないというのが何十年後かに来ると言う状況は変わらないので、やはり学校施設については例えばこの学校については 60 年で建替えをしようとかそういう事は長寿命化計画の中で議論をして再配置を試みながら、学校の長寿命化計画もそれぞれの学校毎に作っていく必要があると考える。

大野副会長：それは都市整備課長が答える事ではなく、教育こども未来部長か学校教育課長が答えていただかないと、絵に書いた餅になってしまうので、そちらで答えて頂きたい。

学校教育課長：各学校は当然これまで手を掛けてきた箇所が違う。そう言った事も再度見直しながら、基本的には、国は長寿命化に方向は変えてきているが、必ず全て 80 年に延ばすと言う訳ではなく、一つひとつの施設を見直して改築も考えて計画を作っていくたい。

鈴木会長：学校施設は体育館、校舎、プール、色々ある。築年数というのは今ひとつくりになっており、どの建物の年数かわからない。だけど、一緒に建てられたはずはない。体育館は体育館で何年度、築何年という経過があるはずである。学校ひとつくりではなく各棟、各施設、体育館なら体育館、プールならプールと、個別に分けて、その中でこれは残す、これは改築するという計画を作るべきだと思うが、どうか。

教育こども未来部長：例えば北小学校の北館は増築があり 36 年、41 年、42 年と、建築部分によって異なる。それぞれに拠って長寿命化を図っていくということと思う。ただ、一棟になっていると、そこをはつることは、なかなかないかと思う。現状を見れば、減築も考えていかなければいけないと思う。屋内運動場、武道館等についても同様。同じ校舎の中でも建増ししたのが北小の両館、南小の元々の館、東小は北館も南館も増築を繰返しており、五条川小学校についても増築している。1 回だけで済んでいるのは、曾野小だけ。そういったデータは今のコンサルが所有しているので、それぞれの棟でいこうかと思う。

鈴木会長：例えば、東小学校の体育館は非常に新しいはずだが、校舎はもう築 50 年。「東小学校は築 50 年」という括りで我々は資料をもらっている。そうすると「じゃあ体育館も一緒に建替えなのか」という話になるので、長寿命化するのか壊すのか、校舎を壊しても体育館は長寿命化する、とか。もう少し詳細について、長寿命化とか大規模改修とか改築とかっていうのを計画しなければいけないのではないか。その様をお願いしたい。

大野副会長：我々に公表されている施設カルテが一括りである。当局が持っているが、市民や議員にはそんな資料は提示されていない。我々も提示して頂かないと、委員会のメンバーも提示していただかないと分からないと思う。早い段階で提示していただく様、強く要望する。

黒川議員：1年先送って30年度の計画という事で拙速でない構えでやることは大事だと思う。先ほど、延伸でどの位の影響額が出るかと言った時に、コンサル委託料が70万円増えるとのことだが、長寿命化計画を作る費用は別途かかるのか。それはどれ位を見込んでいるか。

学校教育課長：学校施設の長寿命化計画について、計画の策定業務の委託をコンサルに出したいと思っている。約150万程度を現在考えている。

黒川議員：それが国の方針ということだが、国庫補助の対象となるのか。

学校教育課長：国庫補助の対象ではない。

大野副会長：今年、半田市が学校施設の長寿命化計画を作った時、計算したら1校当たり150万だった。なんで、7校で150万で出来るのかよく分からない。どんな見積もりを取っているのかよく分からない。総合的にいい提案を出してもらうために、他市町はプロポーザルでやったりしているが、どのような入札方式を考えているのか。

学校教育課長：現在のところ、既に岩倉の学校施設のデータを持っているコンサルにお願いをしたいと考えている。

大野副会長：それは随意契約で、入札を掛けないということか。どういうつもりでそんな発言をするのか。新規契約する時になんで随意契約の話が最初から出てくるのか。

都市整備課長：平成28年度から再配置の計画を委託しており基礎的なデータは既に持っている。大規模改修をやった時期についても、学校教育課が全て関係のデータを持っている。長寿命化計画については一定、文科省からも指針が出ており、かつコンサルともそのデータ若しくは作成した物を使って、反映することが出来るという事だった。改めて入札等をかけると人件費ばかりがかかってしまうという事もあり、本来であればこれは再配置計画を作る前にやっておくべきだった訳で、その時にやっておけば多分、もっとお金がかかったと言うわけだが。今回、データ等を利用しながらやれば費用的に随分と安く出来るという事もあり、無理を言っている部分も正直あるが、学校教育課長の言った金額で随意契約にしたいと考えているところではある。

大野副会長：中央コンサルタンの学校施設の長寿命化計画の実績は何件あるか。橋等はプロフェッショナルだから絶大なる信頼があるが、学校施設の長寿命計画の実績はどの位あるか。

都市整備課長：把握はしていないが、無いと思う。指針に沿って作っていくことになっていくと思う。

鈴木会長：保育園の全体計画を子育て支援課で半年以上かけて作るということだが、民間の施設も含んで、まとめて全体計画を考え直すということで、外注するのか、それとも内部でやるのか。

子育て支援課長：今のところ、公立保育園については全体計画というイメージ。その中で、担当がなければ難しい事で、外注委託をしている。今はま

だ見積り等徴収しているところで、具体的な金額がお示しできない。委託で考えている。

榊谷議員：保育園の全体計画は、民間や子ども園も含めてではなく、公立保育園の中の全体計画か。

子育て支援課長：認定子ども園は3園あり、少子化していく子どもの推移とか認定子ども園での件数等も含め判断をしていくが、再配置計画に向けて、公立7園の将来をどう考えていくかが最終なので、公立保育園の全体的計画とした。

## 10 協議事項

### 第2期のモデルケースについて

【再配置案5：岩倉市民プラザ・岩倉市図書館・南部老人憩いの家の複合化】

大野副会長：3つの施設をどの様に複合化したいかというプランが無い。一緒にしたいという思いだけで、どの様な施設にしたいのか、全く見えてこない。

都市整備課長：二次評価を実施して、圏域が近い市民プラザ、図書館、南部老人憩いの家で、基本的には駅に近くアクセス制が良いので、現在の位置に図書館、市民プラザがあるが、更新年が、第2期の平成47年度に市民プラザが概ね60年をまず迎える。図書館と南部老人憩いの家は第3期に60年を迎える。どういう形で施設を魅力あるものにするかについては、正直未だ第2期以降の案という事もあり、あくまで案1から4とは色を分け、アクセス制がいいので、この位置で複合化をしたらどうだろうということ挙げた。具体的な配置案や、どういう形で複合化を図るかについては、正直、案5から7もそうだが、全く（ない）。先のことなので少し考えていきたい。もしかしたら、もっと早くに建替えなくてはいけない時期が来るかもしれないので、耐用年数と言ってはいるが、そこで判断して2期以降の案で閉めた。

大野副会長：図書館を市民プラザの位置に建直すとすると、図書館は先に移設しないといけない。最近、各市町で、例えば青森県津軽市でイオンモールの中に図書館を移設しているものがある。岡山県玉野市も商業施設の中。そういった新しい発想をして、空いたスペースに新たな複合施設を作っていくという様にしない限りは、今の貧弱な発想では無理。コンパクトシティだから柔軟に、今の民間施設の中の有効を活用していくという提案も一旦は検討していかないと、一気に物は壊せないで、複合施設を作る時にスペースがいるため、スペース確保の為にそういった事も考えていくことが必要と思うがいかがか。

都市整備課長：投げてしまう言い方かもしれないが、こういう場がそういう場だと思っている。複合化案は、例えば駐車場の問題も、解決するのであれば今の位置が本当に適しているかは疑問になる。今のような商業施設を使うという話もご意見としていただき、実際に老朽化が進んできたのでいつ時点で立替をしようという時に、そういった事を参考にする。例えばアピタやサクランドがもし使えるなら検討をする状況になると思うので、本当に貧弱で申し訳ないが皆様の意見をいただいて、繋げていきたい。

堀議員：市民プラザでひとまとめになっているが、ここには市民活動支援センターと子育て支援センターがある。ハードばかりに目がいて、ボランティアの人達の集まり等、ごちゃ混ぜになって、ソフト面の今後の在り方が内部でどれ位話されているのかが、多分問題になってくると思う。だから、市民プラザ、と考えるのはそもそもおかしいと私は思う。

都市整備課長：内部にも検討部会を設けてやってきたが、特にそういった意見が出ていない。こうしてご意見をいただいたので、見直していく段階において参考にしたいと思う。

大野副会長：さくらの家、老人憩いの家の様な施設の中に、子育てのスペースがある成功事例があるので、今の成功事例をそのまま参考にしても問題ないのかなとは思う。

榎谷議員：成功事例と言っても全然違う。さくらの家の子どもスペースは専門の保育士さんがいない。市民プラザ2階の子育て支援センターは専門の保育士が配置されている。質的な問題、位置付けは全然違うという事は確認して頂きたい。

大野副会長：分かった上でそういったものを一緒にすればいいんじゃないかというだけで、他意はない。それを言い始めたらもう何も喋れなくなるので。総合的に考えてそうやって進めていくという意味。

鈴木会長：今、都市整備課長から話があった様に第2期以降の工事についてはあまり踏み込んで考えてない、協議もされていない、これからこの場を利用して色々な意見をいただきたいというご意見もあったので、一方的ではなくて、皆さんの意見をフリートークでいいから、ちょっとどうなのとか、堀議員が言われたように市民プラザってひと括りでいいのか等色々あると思う。何かご意見あればフリートークで。私から切り出して言うが、図書館は非常に大事なスペースだと思う。多様な図書館がたくさん出来ていて、津軽で見て来たが、青森の図書館はショッピングセンターの中に入っていた。ショッピングセンターが撤退して市の施設が入っているという成功事例も失敗事例もある。岐阜市の図書館で「メディアコスモス」という素晴らしい図書館があって、そこは複合施設で交流センターやスターバックスやローソンが入っており、色々な取組みをされている。だから、岐阜市の図書館もそうだが、市民参加で棚上げになっているケースもあるが、岩倉市にどういう図書館が合うかについて議論をしていかないと、方向性が見えて来ない。市民プラザも様々な市民活動団体の方が使っており、ホールがあってコンサートも出来るようになっているが、施設が古いので、50%位の利用頻度と書いてあるが、それと図書館と一緒に複合は少し無理があるのかなと。どういった図書館がいいか、皆さんの意見を聞いて複合化を考えていかないと、まとまりがないかな。

黒川議員：いずれにしても市民プラザ、図書館、南部老人憩いの家は駅に近いという利便性があるので、失礼な言い方だがとりあえずの形だと。けど今、鈴木会長が言われた様にやはり図書館とはいつの時代でも文化の伝統でとても大事。ただ、単体で建物を建てるのではなくて図書館の機能と相乗効果がある様な別の機能も組み合わせる。じゃあそれは何だ。そういった議論が必要かなと思う。そういう意味で市民活動団体の拠点となるも

のもくっつける。しかし老人憩いの家をくっつけて、そこでカラオケではどうか。もっと他にくっつけてもいい機能のものがあるのではないだろうか。機能面を重視しながら、複合化のあるべき姿を探るのも一つの考えかと思うが。

宮川議員：僕は論点から外れているかも知れないが、単体に話が進んでいるような気がする。例えばだが、以前、駅前にハンバーガーショップがあり、撤退するときに東海エリア総括責任者の方とお話しした。岩倉駅のビルの中にあるのに東海3県の中で一番売り上げが低いから真っ先に撤退する、と。そして全国チェーンのコーヒーショップの営業権を持っている会社の方とお話ししたが、岩倉にそういうコーヒーショップ出来ませんかと言ったら、全額岩倉市が持つなら出してもいいが、営業面で全く採算が取れないの出すつもりは無いという風に言われた。先ほど岐阜のメディアコスモスの話が出たが、ああいう総合的な施設の必要性は夢があっていいなと思う。では岩倉市がどういうまちを目指すのか、どういう施設が必要なのかというところから話をしなければ。以前の朝日新聞のデータだったか、愛知県の中で一番昼間人口と夜間人口の差が大きいようだ。要は、昼間帯は、保育園、小中学生とお年寄りしかいないようなまちで、夢が語れるのかということ。どういう市民を集めて、どういうまちを創っていくのかという点から掘り下げないと、木を見て森を見ずのような、ちぐはぐなまちづくりになってしまうような気がする。

大野副会長：それを言ったら、これを議論できない

宮川議員：民間活力を入れようと言っても、向こうが来なければ意味がない。

堀議員：リニアインパクトで東京から近くなる。岩倉に遊びに来る魅力がない。鉄道1本しかないわけだから、そことタイアップしないことには、まちの発展はないと個人的には思っている。全国規模の店舗が入らないっていうのも、もしこれで岩倉市に複合施設で魅力があったら当然一緒にやりたいって言うと思う。民間企業と一緒に考えて考えないと、行政だけで市民の方の色々な意見を取り込むのもいいけど、民間活力を利用した形でないとこれからはやっていけないと僕は思う。

鈴木会長：皆さんいろんな意見を出してもらえたらいい。

大野副会長：それ言い出したら、2期以降のモデルケースは検討しないっていう話になってしまう。意見としては言ってもいいが、それ言い始めたら6, 7なんて進められない。

宮川議員：民間を巻き込むと言っても、40年先にはこういう施設を作りたいと民間の経営者に投げかけたら多分、何を馬鹿なことを言っているんだということになると思う。地元密着の色々な企業がこの市内にはあり、当然そこには商工会も関わっていかなくてはいけない。もう少し広い枠の中で、まちをどうつくるのかというそういう会議体みたいなものがあるといいと思うが、どう考えているか。将来のまちづくりに関わってくるものだから、土台をしっかりとっておいたほうがいい。

都市整備課長：正直、全体像というか、将来のまちづくりについては十分な取り組みがなされていないというのが現実。駅東もそうだが、今後、どういったまちづくりにしていくかということで、街路整備とあわせてまちをつ

くっていくのであれば、再配置で何らかの施設をもってくるということも、そういった土地が出るので、可能になるかと思うが、駅東西、全域、そういった取組みが十分されていないと都市整備担当として思う。当然やっていかななくてはいけないとは思っており、上位のものがあってこういった再配置や各計画というのは成り立っていくと思うので、実現性あるものとしていくためには当然、なくてはならないものだとして認識している。

総務部長：10年スパンだが、総合計画がそれと認識している。それを超える40年という計画は、どこまで詳細な形を見据えていくかは難しいと思う。図書館の話が出たが、それをここで議論するのは困難ではないか。社会情勢もあり、単なる建替えや更新ではなく、複合化や統廃合を通した効率性が必要というのはこれまでも話してきた。ここでの議論は非常に重要なものだと思うが、個別の案件についてどこまで話すのかは難しく、その辺りを整理しないと難しい。ただ、まちづくりという最上位の計画は総合計画であるということをご伝えておきたい。

大野副会長：再配置計画というのは、今の20代30代が将来になって困らないように大体の方針を決めておいてあげるとのことだと思う。それが先輩たちの責務、議会もそれが責任だと思っている。それが正しいか正しくないかは5年後、10年後に考えるとして、方針は決めておいてあげようというのがこれだと思っているが、いかがか。

黒川議員：少なくとも言えることは、今ある公共施設をずっと将来にわたって維持していこうということが無理。量的には削減せざるを得ない。だけど集約、複合化することによって品質の向上を求めないと。僕は岩倉のまちの性格は将来においてもそんなに変わらないと思う。生活者の都市、プラスチックコンパクトシティというのは間違いない。そうすると駅周辺に集めたほうがいい施設は集めていく。あるいは各地区にあって必要な施設、集会所だと思うが、そういったものは残していく。管理のしかたは地元と話をしていく。そういうメリハリが効いたマネジメントというのを併せて考えていく必要があると思う。今ある施設がなくなって移っても、品質が良くなれば住民の方は納得できると思う。前は、器に目を取られすぎ、機能の見直しをすべきだ、と言ったが、両方上手い具合に合算して何とか作り上げることができないだろうか。地域が望む施設というのは、コミュニティーと防災、特に防災は先だつての大雨なんかがあったりすると、やっぱり皆さん不安に思う。公共施設は防災の拠点、避難所となるべき施設であるし、併せてコミュニティーの施設。図書館へ行けば本好き同士が会えるだろうし、市民プラザへ行けば市民活動やっている団体同士が交流を持てるだろう。コミュニティーと防災を基本に持ちながら絶えず考えていく必要がある。僕らが30年40年先まで責任を持てるかといったら、せいぜい第1期。第2期以降が構想なのはやむを得ない。第1期の途中で第2期の具体化を図っていくとか、そういったことが必要だと思う。

鈴木会長：黒川議員の言うとおりに思う。第2期のモデルプラン5, 6, 7は正直、中身が薄いと僕は思った。図書館も20年くらいで建直するという計画だが、そこに建直するためには今から検討していかないと、間に合わない。10年後に作るなら本当に今、真剣にやらないとといけない。20年後

でいいのかも僕は、図書館はもっと早くやるべきと思う。あそこで建直すわけにいかないの、どこかに作って、あそこはまた別の施設を持ってくるとか、色々なこと考えていかななくてはいけない。商業施設に入れるのも一つの選択肢で、色々な選択肢を考えながら岩倉市の図書館や施設をどう配置すべきかを考えるべきじゃないかと。それをやるのがこの会議と思うので、そういう風をお願いしたい。

**【再配置計画6：五条川小学校・第六児童館の複合化】**

大野副会長：第六児童館は60年となっているが、今の放課後児童クラブ完成後、できるだけ早い時期に第六児童館の機能を五条川小学校に移設する考えはないか。

教育子ども未来部長：五条川小学校については、今年度中に完成。空いている時間には学校にも地域にも使っていただきたいが、まだ建物が見えてこないの、どうですかということも言いにくい、放課後児童クラブが学校の中になれば、第六児童館に来るのは未就学児、学童ではない子どもたち、中学生等になり、今までの使い方とは大分変わってきて、空く部屋も出てくるので、本来の児童館の機能、学童以外の機能を発揮できるように運営をしていきたい。ただし施設的には、既に40年以上経った施設。今から大きく改修するということは考えにくいのかなとは思。土地も借地で、第四児童館についても学童の子が来なくなって利用人数も正直減っている。使い方としては地域にも使ってもらおうとか、そういうことも考えていかないと、第六児童館も遊休施設になってしまうのかなと考える。今でもちびっこクラブとか、お母さん方でもこないだタウンミーティングの時、午前中児童館に行くという話もしていた。そういったことで是非使っていただきたい。PRもしていきたい。

大野副会長：もう修繕はしていかないということだと、人気のある施設になるとはとても思えない。何年閉館と決めて、余裕教室ができれば五条川小学校に機能を移すと、5年先なのか10年先なのかは別だが、そういった方針を今決めておかないと、これがまたずるずると残したままということになるので、ここに関しては、余裕教室を活用したかたちで検討を進めていくべきではないかと考えるがいかがか。

教育子ども未来部長：五条川小学校には現在、各学年2クラスの合計12クラスがあり、放課後を考えるときも余裕教室ができなかった。開校当初と比べれば1クラスずつ位は減っているが、(壁を)抜いた体育館に代わるような集会の教室、低学年図書室、今は少人数の教室もやっているの、今の建屋で、児童館的な機能を入れられる可能性は低いと思う。実際にほかの市町で、子どもが少なくなって低学年図書室は、地域図書室として開放している運用もあり、瀬戸か高蔵寺では、1階部分は高齢者が常駐する施設になって2階・3階だけ学校、というような実例もある。五条川小学校は今の人口推移を見ると、そこまでの減少は考えにくいと思うので、建替えのときに更新したいというモデルになっている。第六児童館を今すぐやめようという考えはない。

大野副会長：そうすると、今からまだ20年弱使うということだ。20年近く

使うのに、改修していかないという方針はおかしい。

教育子ども未来部長：日々の改修はしており、建替え等、直すのに何千万もかかるというふうになったときには考えると思う。

鈴木会長：第六児童館は借地なのか。契約の内容は、いつまで等はあるか。

教育子ども未来部長：公共施設で借りる場合は基本的に10年とか20年単位としていて、それ以降は双方の申し出がなければ1年ずつ自動更新にしており、既に自動更新の段階に入っていると思う。

鈴木会長：もし申し出があれば受けなくてはいけないのか。

教育子ども未来部長：申し出があれば、例えば既に返したところが、北島児童遊園、あゆみの家の駐車場。地主さんによっては手を加えないよう言われている場所もある。

堀議員：さっき総務部長の方から総合計画という話がありましたけど、10年20年先のビジョンが、はっきりどっちを向いてその計画を立てていくのかってというのがまず問題だと思う。さっき1階は老人施設云々というのがあったけど、民間に貸し付けるということも含めて、もっと柔軟に、民間との連携とか貸付とかタイアップとか、行政はそういったところが弱かったから、そこをもっとやっつけていかないと。岩倉市の魅力、石仏地区をどうやって魅力ある場所にしていくかってビジョンが総合計画読んでいてもまだ見えないし、人口ビジョンなんて単に人口云々の話で、前回の検討委員会が出たように夢のある建物を考えたうえで、財政をあんまり圧迫しないように複合化してくとかそれはもう基本路線だと思う。イメージがもっとふくらむような議論を交わしていくのがいいと思うし、地域の人の意見を聞いて、どこに図書館を複合化するのがいいとか、それが現実的に可能かどうか厳しく議論してかないと。やっぱりどこまでいっても、まちづくり。この石仏地区、小学校区を中心としたまちづくりをどうしてくか、全然議論が足りないのかなと思う。

#### 【再配置計画7：総合体育文化センター・岩倉市保健センター・岩倉市休日急病診療所の複合化】

大野副会長：総合体育文化センターはまだメンテナンスしているほうで、本当に60年を前倒して整理する必要があるのか。どういう方針なのか。総合体育文化センターをまずどうしたいのかが見えてこない。60年から、もう少し70年80年使えるようにしたいのか、もう今までのようにしっかり整備せず60年で終わるのか、大前提が見えないが。

教育子ども未来部長：総体文については平成2年の建物で、既にもう26～7年経っている施設で、30年経ったところで大規模改修をして予防保全を施せば、60年より長く使えて費用も少なく済むということでモデルを作っている。パターン1は、31年目の大規模改修のときに複合化を図ったらどうかという案。パターン2は、75年間使うプラン。総合体育文化センターは岩倉市唯一の体育施設だから、統合したとしても今の機能を損なうことはないと思っている。保健センターとの統合は、先日も保健師にトレーニング室に何日か行ってもらって、トレーニングしている人に指導をしてもらい、また保健センターの講義を受けてもらうとトレーニング室の無料利用

券を渡す等、ソフト事業もやっているもので、これが近くにあると機能的に良い施設になるのではないかというプランを描いている。

大野副会長：総合体育文化センターは長寿命化を図っていくべきだと思っているので、複合化は難しいのではないのかと。石仏のスポーツ広場が出来た時、周辺にスポーツ施設とともにやるとかそういった新しい発想しないところの2つは複合化できないだろうと思う。

鈴木会長：私も同じ意見で、総合体育文化センターを大規模改修しても休日診療所と保健センターはそこに入ってこない。ということは、大規模改修は大規模改修、そして、別棟で施設を別に2つ作るということしか考えられない。そうすると大規模改修に合わせる必要ってない。切り離して考えればいい話。パターン3の全部作り変えるという話ならわかる。だけど複合化するときには総合体育文化センターを一部壊して増築できればいいが、それもとぶん構造的にも出来ない。別棟で作るしかないのだったら、一緒に考える必要はない。複合化にならない。同じところに並べて置くっていうくらいならわかるが、それは複合化ではない。そもそもこれはおかしいかなと思っていて聞いたかったのだが、なぜこういう発想になったのか。保健センターと休日診療所だったら、なんとか考えて一緒に複合化してやればいいのかと思う。総体文は関係ないかなと。その辺どうですか。

都市整備課主幹：既設の休日診療所、保健センターの来客用駐車場が不足していて、今の総体文の駐車場のほうが広範囲なので、より利用しやすいと考えて、駐車場の問題の解決のために複合化を考えたということがある。

鈴木会長：それは複合化ではなく別棟で建てるという話ですよ。

都市整備課主幹：既存の総体文の中を改修して休日診療所や保健センターを入れるというのは難しいかと思う。

鈴木会長：ということは複合化ではなく、駐車場を利用したいから別棟で建てる、集約ということか。

都市整備課長：パターン1は、平成30年度に総体文が大規模改修の時期を迎えるので、休日診療所も保健センターも全て入れて複合化しようというのが、パターン1である。

鈴木会長：出来るのか。

都市整備課長：わからない。そういうことが出来ないかということ。セキュリティの問題だけなのか、あるいは構造上の問題があるのかも知れないが、ふれあいホール（正面玄関入って右側のスペースのこと）の位置に保健センターを入れる等、総体文の玄関を入ったら保健センターと休日診療所が見えるというような面的に完全に一続きに、そんなことを、30年度の大規模改修で出来ないかという複合化をパターン1は考えている。パターン2は、休日診療所が古くなってくるのがもう第2期なので、保健センターと休日急病診療所を30年度に複合化し、かつ総体文については31年度に延命化を図って延ばし、最終的に、保健センターが80年を迎えるときに合わせるという複合化。パターン3については休日診療所の46年の時期にすべて複合化をする。今あるところを改修して別に建てるという話ではなくて、全て複合化パターンで、年次別になっている。

大野副会長：パターン1だともう実施計画に入っていないといけないし、も

ともたぶん理論上おかしい。できっこない。パターン2か3である。配置案7だけは全面見直しだ。

梅村議員：まちづくりの観点で、健康エリアとして位置づけして、おそらくこの複合化がされると、総合体育文化健康センターになるのかなと予想をするが、健康にひっかけてそういう施設、エリアだよと。石仏の広場も割と近いので、その一帯を大掛かりな整備をしたり。あるまちで体育館をつくるのに「健康」というワードで交付金をもらっていた気がする。定かではないが、「健康なまちづくり」で国から交付金が出ないだろうかとか、そんな観点で考えながらつくっていくとおもしろい組み合わせかなと感じている。

須藤議員：私も再配置案7は良いと思う。保健センターで健康についていろいろやってもらって、スポーツとからめてやったらいい。岩倉市の健康都市宣言等とからめてやっていけるなと思うのでこれはいいと思う。保健センターで健康診断を実施するときの駐車場問題もあり、総合体育文化センターの駐車場を使えたらいいと思うので。

大野副会長：僕はこの2つの施設だけじゃなくて他の施設も合わせて複合化した方がいいと言っただけ。この2つだけなら単なる集約化。駐車場を別にするとまた土地を買う等の話だから、もう一回見直し、複合化を考えたほうがいいのではないかと。

鈴木会長：パターン2、3のタイミングならいいが、パターン1の大規模改修で複合化は全然イメージが湧かない。要するに1500平米のものを大規模改修しながらくっつけるとは、どういうイメージでくっついてくるのか、技術的な問題もある。別棟で作って渡り廊下を作る等、色々な接続の仕方はあるが、集約してくるといふ考え方はいいが、複合化とは建物一つで考えるという感覚なので、技術的に難しいし、それを大規模改修にあわせてというのはどうなのか。全部、複合化で建直すならわかる。それが一番いいのだろう。そうでないと中途半端なものが出来てしまう。学校でもそうだが、複合化と言っているが、1棟は壊してそこに別の施設を作って何かで繋ぐ等、そういう感覚かと思っていて、中の改修をしながらそこへ施設を色々持ってくるという、それも一案だろうが、基本的には大きなものは持ってこられない。その辺りを検討していただきたい。

大野副会長：総体文は長寿命化を図ってできるだけもっと使いましょうよ、岩倉のホールは多目的ホールしかないのだから。長寿命化を図ってできるだけ使えるような施設にする。ここは残しておかなくては仕方ない。だからもう少し考え方を変えたほうがいいんじゃないですかと僕は言っているだけ。

黒川議員：梅村議員が言われたように、健康というキーワードからそれを機能として一体的に見て、より利便性の高いものにしていくという一つの考え方。鈴木会長が言われたように、総合体育文化センターはまだまだ長寿命化できるので、保健センターと休日診療所をくっつけるとなると、あの敷地でどうだということになる。東側の道路をつぶしてその部分で集約化を図っていくことも可能だろうと思う。どんなまちづくりにするかということと共に機能の集約化をどうしてくかという点からもう一度、掘り下

げたほうがいいのではないかと思う。

#### 1 1 その他

鈴木会長：提案だが、現地視察を行いたいと思う。保育園の利用者の少ない8月のお盆の時期に、1日かけて見学したい。この協議会のメンバーと、公共施設再配置計画検討委員会の委員にも声を掛けて、出席できる人には是非一緒に行きたい。その日程調整をしていただきたい。移動手段はバスでどうか。

堀議員：市のバスでは（道路が狭く）無理ではないか。

大野副会長：各会派で1台ずつ車を出して乗り合わせてはどうか。

教育こども未来部長：1日で全部回るのか。

大野副会長：別の日でも良い。普段なかなか中にまで入れない。希望の家も、中に入ったことがない。現場を見たこともないのに議論するのは我々も、委員会メンバーもおかしい。検討を始める前に見学を、と要望したはずだ。

教育こども未来部長：希望日程を出してもらえたら調整できるが。

子育て支援課長：9～15日が自由登園である。

鈴木会長：では改めて調整して連絡する。都合がつく方だけ行ってもらう。

視察するのは第1期に入っている施設のみ。

大野副会長：10月28日（土）に東洋大学 南学先生の講演を午後2時から市役所7階大会議室にて依頼している。それに伴い、市の広報と中日新聞、トッピー等、可能なところに掲載依頼をお願いする。市の広報はよろしくお願いしたい（事務局で掲載依頼済み）。できるだけ多くの市民、職員の出席をお願いする。

鈴木会長：8月は施設見学を実施するため、本協議会は開催しない。9月は予備日のどこかで調整する。

都市整備課長：なお、次回の公共施設再配置計画検討委員会日程は現在未定。

（午後4時38分散会）